

第 49 回 SGRA フォーラム 「日本研究の新しいパラダイムを求めて」

日 時： 2015 年 7 月 18 日（土）午前 9 時 30 分～午後 5 時

会 場： 早稲田大学大隈会館（N 棟 2 階 201、202 号室）

主 催： 渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）
共 催： 早稲田大学東アジア国際関係研究所

フォーラムの趣旨：

渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）は、2014 年 8 月にインドネシア・バリ島で開催した第 2 回アジア未来会議において、円卓会議「これからの日本研究：学術共同体の夢に向かって」を開催した。

この円卓会議に参加したアジア各国の日本研究者、特にこれまで「日本研究」の中心的役割を担ってきた東アジアの研究者から「日本研究」の衰退と研究環境の悪化を危惧する報告が相次いだ。

こうした状況の外的要因として、アジア・世界における日本の国際プレゼンスの低下と、近隣諸国との政治外交関係の悪化が指摘されている。一方では東アジアの日本研究が日本語研究からスタートし、日本語や日本文学・歴史の研究が「日本研究」の主流となってきたことにより、現代の要請に見合った学際的・統合的な「日本研究」の基盤が創成されていないこと、また各国で日本研究に関する学会が乱立し、国内のみならず国際的な連携を図りづらいこと、などが内的要因として指摘されている。

今回のフォーラムでは、下記の 4 テーマを柱とした議論を行い、東アジアの「日本研究」の現状を検討するとともに「日本研究の新しいパラダイム」を切り開く契機としたい。

1. 東アジアの「日本研究」の現状と課題、問題点などの考察
2. アジアで共有できる「公共知としての日本研究」の位置づけ及び「アジア研究」の枠組みの中での再構築
3. 「アジアの公共知」としての「日本研究」を創成するための基盤づくり、知の共有のための基盤づくり、国際研究ネットワーク、情報インフラの整備等の構想
4. 日本の研究者、学識者との連携と日本の関係諸機関の協力と支援の重要性

《参加者の皆さまへ》

今回の SGRA フォーラムでは、趣旨に記されているとおり東アジアの日本研究の現状を俯瞰し、次世代の「日本研究のパラダイム」を構想するための広範な課題群をディスカッションテーマとして掲げています。しかしながら、これらの課題のどれ一つをとっても一朝一夕に解決できるものではありません。

このフォーラムでは、現在の東アジアの日本研究が抱えている課題を議論することと合わせて、アジアで共有できる「公共知としての日本研究」を目指し、日本研究の成果を共有するための学際的国際的な連携と交流のプラットフォームづくり、仕組みづくりを焦点を当てた議論を行い、将来のネットワーク形成の第一歩としたいと思います。

皆さまからの積極的な提言と議論を期待しております。

プログラム：

総合司会：孫 建軍（北京大学日本語文化学部准教授、早稲田大学社会科学総合学術院客員准教授）

9:30～12:00 【基調講演・報告】

基調講演：平野健一郎（東京大学名誉教授、早稲田大学名誉教授）

「新しい、アジアの日本研究に求めるもの」

報告1：楊 伯江（中国社会科学院日本研究所副所長）

「中国の日本研究の現状と未来」

報告2：朴 喆熙（ソウル大学日本研究所所長）

「東アジア日本研究者協議会への呼びかけ」

報告3：徐 興慶（台湾大学日本研究センター所長）

「台湾の日本研究の現状と未来」

報告4：茶野純一（国際交流基金日本研究・知的交流部長）

「日本研究支援の現状と展望－国際ネットワークの形成に向けて」

13:00～17:00 【ディスカッション（円卓会議方式）】

モデレーター：南 基正（ソウル大学日本研究所研究部長）

13:00～13:30

論点整理：劉 傑（早稲田大学社会科学総合学術院教授）

13:30～15:00 円卓会議

15:00～15:30 コーヒーブレイク

15:30～16:30 円卓会議＋コメンテーターディスカッション

16:30～17:00 総括と今後の展開

ディスカッションテーマ：

1. 東アジアの「日本研究」の現状と課題、問題点などの考察
2. アジアで共有できる「公共知」としての「日本研究」の位置づけ及び「アジア研究」の枠組みの中での再構築
3. 「アジアの公共知としての日本研究」を創成するための基盤づくりと知の共有のための基盤づくり、国際研究ネットワーク/情報インフラの整備等の構想
4. 日本の研究者、学識者との連携と日本の関係諸機関の協力と支援の重要性

《招待討論者》

1. 楊 伯江（中国社会科学院日本研究所副所長）
2. 梁 雲祥（北京大学国際関係学院教授）
3. 白 智立（北京大学日本研究センター副所長）
4. 帰 泳濤（北京大学国際関係学院副教授）
5. 朴 喆熙（ソウル大学日本研究所所長）
6. 李 元徳（国民大学日本研究所長）
7. 徐 興慶（台湾大学日本研究センター所長）
8. 平野健一郎（早稲田大学名誉教授）
9. 劉 建輝（国際日本文化研究センター教授）
10. 稲賀繁美（国際日本文化研究センター教授）
11. 茶野純一（国際交流基金日米センター所長、日本研究・知的交流部長）
12. 首藤明和（長崎大学多文化社会学部教授、日中社会学会会長）
13. 森川祐二（長崎大学多文化社会学部准教授）

《主催側》

1. 劉 傑（早稲田大学社会科学総合学術院教授）
2. 李 恩民（桜美林大学リベラルアーツ群教授）
3. 江 正殷（早稲田大学国際部東アジア部門長）
4. 孫 建軍（北京大学日本語文化学部准教授、早稲田大学社会科学総合学術院客員准教授）
5. 南 基正（ソウル大学日本研究所研究部長）
6. 林 泉忠（台湾中央研究院近代史研究所副研究員、国立台湾大学歴史学科兼任教授）

使用言語：日本語